

## 2 カブトムシを育てよう

### 用意するもの

カブトムシの幼虫、腐葉土（ふようど、昆虫マットという名前で売っている）、容器（ガラスびん、ペットボトル、水そうなど）

### やりかた

- 1 容器にしめらせた腐葉土（ふようど）を入れる。湿り気（しめりけ）は、幼虫がいたときの土の湿り気。握ったときにバラバラにならず形が残るくらいです。  
容器に入れたら、カブトムシの幼虫を入れる。ガラスびんやペットボトルには一匹とし、30cm 水そうには5匹くらいとする。
- 2 腐葉土の湿気（しっけ）を保つため、空気穴をいくつか開けたビニルをケースとふたの間にはさむ。
- 3 土と幼虫を入れたら、まわりを黒い紙でおおう。ふだんは、うす暗いところで、そっとしておこう。
- 4 ふんが多くなったら、しめらせた腐葉土をたす。
- 5 時々、幼虫の様子を観察する。さなぎはカブトムシそっくりだよ。



ガラスびんに腐葉土を入れたところ。



幼虫を入れたら、穴を開けたビニルをかぶせます。



黒い紙でまわりをおおいます。



水そうでもできます。

### 参考文献

- 1) 八巻孝夫 (2005) 飼育と観察 (小学館の図鑑 NE0)、株式会社小学館
- 2) 八巻孝夫 (2002) 昆虫 (小学館の図鑑 NE0)、株式会社小学館

## カブトムシの幼虫（撮影日：平成22年5月9日（日））



全体的にやや黄色がかかっていますので、蛹室（ようしつ）という、さなぎになる部屋を土の中につくります。からだの横にある赤い点（てん）は気門（きもん）といって、呼吸をするための穴です。



あしが6本あるのがわかります。あしのはえている部分が、胸部（きょうぶ）といえます。



カブトムシの幼虫の頭部です。くさった木や腐植土（ふしょくど）をかみくだく大きなあごをもっています。



カブトムシの幼虫のふんです。1 c m近い大きさです。ゴキブリの卵のうのようです。